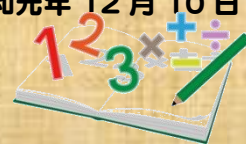




算数・数学部報



第69次教育研究愛知県集會に参加して

10月26日にウインクあいちにて第69次教育研究愛知県集會が行われました。岡崎市からは、算数科では大原洋平先生（根石小）、三浦優子先生（連尺小）、数学科では山田真希先生（六ツ美中）、加藤早映先生（額田中）、能力・発達・学習と評価では江藤友美先生（小豆坂小）が参加しました。参加した先生方から、当日の様子を教えてくださいました。

<中学校数学>

各地区の方の提案を聞いていると、グループ形態を工夫して学習をすすめている学校が多くありました。その中で印象に残っていることは、「ラーニングピラミッド」です。アメリカの研究によると、学習の定着率は、他の人に教えると90%、グループ討論では50%、講義を聞くでは5%になるそうです。この話を聞き、教師主導の一斉授業からの脱却をし、「深い学び」につながる「対話的な学び」の必要性を私自身強く感じることができました。しかしながら、グループで学習を進める際に子供同士に任せてしまい、理解している子供が理解できていない子供に対して、自分の考えを強要したり、解法を伝えるだけになったりしてしまうことが問題になるそうです。助言者からは、学習者が今教えてほしいのか、自分で考えたいのか、どんな状態であるかを色で意思表示することや、昨日とは異なる人に説明すること、押さえるところは教師が行うことの必要性についてお話していただきました。

この話を聞いて、教師が学びをコーディネートすることも大切だと感じました。具体的に授業で試したいことは、グループで学習を進めると、率先して他の子供に聞ける子供、なかなか聞くことができない子供とに分かれてしまうため、グループ内だけでなく、他のグループに聞きに行ってもよいことや、「〇〇に聞きに行っておいで」と教師側から声をかけること、なかなか動けない子供には、教師がグループの他のメンバーにヒントを与える姿を示すなどして、コーディネートしていくことです。その中で、全体に広げるべき内容は、一度グループ学習を止めて一斉の形態に戻した上で、教科の本質に迫る深く考えさせたい発問を投げかけ、もう一度グループに戻す。このような生徒主体の授業を通して、数学科としての深い学びにつながる実践をしていきたいと思いました。

<文責：加藤 早映（額田中）>

<小学校算数>

発表の中で特に議論になったのが「深い学び」とは何か、どのようにして「深い学び」のある授業をつくっていくかということでした。助言者の先生からは、「これまでもっていた知識や経験に考えを関連付けること」「学びながら成長していることを自覚的に理解すること」などが深い学びだとして指導いただきました。

この話を聞いて、「学びながら成長していることを自覚的に理解させる」ためには、やはり授業や単元の終わりには、自分の成長が実感できる算数日記を書かせることが重要だと改めて感じました。また、他の地域の先生の中には、他の人に認められることも、自分が成長していることを自覚的に理解することにつながるのではないかという意見もありました。

岡崎市以外の先生の取り組みを聞く機会は初めてでしたが、タブレットなどの最新の情報機器を使った授業やグループ学習など様々な実践例を聞き、大変勉強になりました。今後もさらなる授業力向上に努めていきたいと思います。

<文責：三浦 優子（連尺小）>

研究発表会に参加して

<岩津小学校>

11月6日(水)、「自ら考え、判断し、表現できる岩津っ子の育成」と題して、研究発表会が行われました。今回の研究会を通して、目の前の子供を捉え、教師が強い願いをもって授業を行っていくことの大切さを感じました。手立ての1つであるIWAズームを取り入れることによって、課題を焦点化し、子どもの学びや思考がより一層深まっていく様子を肌で感じました。私自身も目の前の子供たちを捉えながら、主発問を工夫したり、教具などを工夫したりして、目指す子供像を具現化できる授業を行っていきたいと思います。



<文責：長谷 昇知(根石小)>

<竜南中学校>

11月13日(水)、「教科の見方・考え方を働かせた深い学びの構築」と題して、研究発表会が行われました。全16学級で、様々な教科で「竜南スタイル」の授業が展開されていました。2年3組の数学科の授業では、授業導入での発問、机間指導の内容もよく練られており、平行線と角の性質や三角形の内角・外角の性質という「見方・考え方」を活用した数学的活動が実現されていました。様々な解き方を発見しようと熱心に取り組む姿や、友達の考えを聞いて学びを深める様子が大変印象的でした。研究発表会に参加させていただき、自分の授業に取り入れていきたい点が多々ありました。



<文責：渡邊 勇輝(城北中)>

アイデア集の紹介

<小学2年 1月>

アイデア：体ものさしでいろいろなものの長さをはかろう
 単元：100cmをこえる長さ(教科書下 P.74) (アイデア集 第31集 P.24,25)
 準備：ワークシート、1m紙テープ、ものさし
 発問「いろいろなものの長さをよそうして、その長さをはかってみよう」

見資料「100cmをこえる長さ」

名前 _____

はかるものの名前	よそうした長さ	はかった長さ
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> だって、 </div>	

「100cmをこえる長さ」の単元で、いろいろなものや場所の長さを予想してから調べる場面(教科書下P.74)で行います。

1mの紙テープのものさしを使って、自分の体で1mを見つけます。同様に、自分の体の中から10cmについても見つけておきます。

二人組になって、様々なものの長さを、体ものさしを使って予想し、ワークシートに長さの予想とその根拠を書きます。実際の長さを、ものさしを使って図ります。

体ものさしで長さの量感をつかむことができ、生活の場面でも「これは〇〇cmくらい」などと活用することができます。

<文責：加藤 光(竜美丘小)>